

働き方改革と 守・破・離の精神①

守・破・離とは、もとは千利休の歌「規矩作法 守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」から来ているもので、修行の各行程における心構えや行動を説いた熟語。

守：師の教えを受けて修行を遂行し、一人前に成長すること。
破：修行や自分の成したことを分析し、より高い目標に改善すること。
離：師の元を離れても、自ら新たな技術や知識を開発できること。

第一回目の今回は守・破・離のうちの「守」を取り上げて、その精神が（株）システム科学が取り組む働き方改革にどのように生かされているのかをお話したいと思います。

「守」、それはHIT.sを 学習し、習得すること。

システム科学が開発した業務プロセス改善プログラムHIT.sは、業務の可視化によって経営革新を実現する画期的なシステムですが、このHIT.s活動（導入・運営）を習得し、円滑に実施するためには、いくつかのセミナーや研修の受講が必要となります。ちなみに、これらのセミナーや研修の指導に当たるのが「カウンセラー」と呼ばれる専門職で、彼らはHIT.sの専門知識を持った高度な技術者たちです。

さて、HIT.sは業務の可視化を通して経営革新を行うツールであることは前述の通りですが、HIT.s法を習得するための第一段階として、まず業務のムダを顕在化させるSチャートの作成という作業があります。これは、業務を可視化するために行う非常に大事な作業です。人と仕事の関係において、従来は「人に仕事がついている」という概念が一般的でしたが、このSチャートは「仕事に人をつける」という全く新しい概念を取り入れたもので、仕事の目的に照らして自らの業務を見直し、改善し、定量的に評価、業務効率の更なる向上を目指すための新しい視点の手法と言えます。単純化された記号を使

用して時系列で作業手順を記入、そして、それぞれの業務に要した時間を記入し、これを作業量とします。そうすると、考案や企画を必要としない作業を自らの手作業で延々とやっていることに気がきます。こうした業務をITによる自動化に任せれば、全体的にもっと効率良く仕事ができるという訳です。手間のかかる割には重要性の低い業務は廃止することも必要です。こうして、ひとり一人の業務からムダをなくし、それを全体的な仕事の流れに組み込み、業務プロセスを総合的に再構築して行きます。

HIT.sの精神とコンセプトを理解していれば、これらの行程は決して難しいものではありません。重要なのは、HIT.sを習得し、身に付け、業務プロセスの改善に役立てようとする、その強い意志です。

私は、このHIT.sを習得するための学習トレーニング（訓練）こそ、守・破・離の「守」だと考えています。

守：師（カウンセラー）の教えを受けて、修行（学習）を遂行し（HIT.sの指導者として）一人前に成長すること。

ここでしっかりHIT.sの基本とオペレーションをマスター

すれば業務プロセスの改善に大きな一歩を踏み出したこととなります。

「守」、それは社員を 守り、会社を守ること。

さて、「守」に関して、私のもう一つの考え方を持って

守

います。文字通り、社員を守り、会社を守る、ということです。

今年の4月から働き方改革関連法が施行され、中には経営体質そのものの改善を余儀なくされる企業も出て来るでしょう。来年から適用になる中小企業にとっても、これは死活問題です。現状のまま何もしなければ、会社の存亡に関わると言っても過言ではありません。

そんな中、業務の可視化で経営革新を実現するHIT.s法は、一方で人材育成の面においても積極的な取り組みが含



株式会社 システム科学
代表取締役社長 石橋 博史

東京都生まれ。1962年から24年間、自動車機器メーカーに勤務。1986年、株式会社システム科学を設立、代表取締役に就任。業務革新の実践および支援ツール「HIT.s法」の開発・導入・コンサルティングを推進する。2010年2月に、P・F・ドロッカーに認められた「業務プロセス可視化法およびチャート作成システム」で特許を取得。2011年3月、一般社団法人可視経営協会を設立、代表理事を務める。主な著書に『最少人数で最強組織をつくる』（ダイヤモンド社刊）など多数。

まれています。どういうことかと言うと、それは、OJT（On the Job Training）を重要視するということです。これは、ひとり一人の社員にいろいろな職種を現場経験させることで、会社の様々な状況に対応できる人間に育て、最適な人員配置と人的構成を築くためのものです。人手が足りない繁忙期と人手が余る閑散期では、社員をうまくローテーションして常に余剰人員を作らないようにするのです。そうすれば、リストラの必要がなくなり、社員のモチベーションはグッと上がります。これを社員の「多能化」と言います。

さらに、個人のスキルを上げ、適性を再確認できるOJTは働き方改革の目標の一つである「柔軟で多様な働き方の実現」にも重要な役割を果たしていると言えます。HIT.sを使って生産性を向上させ、尚且つ社員のモチベーションが上がれば、経営者にとって、こんなに嬉しいことはありません。「さあ、社員一丸となって次のステージを目指そう」、ということになります。

こうして考えると、HIT.sによる業務プロセスの改善は、社員を「守」ることであり、また、会社を「守」ということになるのです。

本年度の弊社イメージキャラクターをお願いしている空手家の中村綾乃さんとの対談でも話題に上りましたが、前述のSチャートによる業務分析は、自分の仕事内容を定型の「型」（フォーマット）にはめ込んで、業務内容を可視化するというものです。「型」にはめるということは、ここでは基本を作るということであり、努力することの大事さや途中であきらめない精神力を培うということなのです。これは空手の「型」の世界でもまったく同じだと言うことで、話が一気に盛り上がりました。「型」は基本。そこにどうやって創意工夫を足して行くかが大事だと。これはまさにHIT.s法の習得プロセスと同じだと、そんなところに共通点があるんだなと実感しました。

今、ダイバーシティなどと言われ、「多様化」が持てはやされていますが、こんな時代だからこそ、私は逆に基本となる「型」が大事なんじゃないかと思うんです。
※女性空手家・中村綾乃さんとの対談は9月に本紙にて掲載予定。

今回は、守・破・離の「破」についてお話したいと思います。

働き方改革に クリーンヒット! HIT.s

業務プロセス改善プログラムHIT.sの概要を解説する2大セミナー、参加者募集!

7/10
(水)開催

業務プロセスを改善したい現場管理者の方に

日経ビジネス 課長塾®(全3回)

日時	7月10日(水)・8月7日(水)・9月11日(水) 9:30～16:30
場所	システム科学研修室
受講料	180,000円(税込) ※昼食付
お申込み	日経ビジネス課長塾のサイト、 または右記のQRコードよりお申込み ください。

7/18
(木)開催

経営革新を実現したい経営者の方に

HIT.s法 事例セミナー(全1回)

日時	7月18日(木) 10:00～16:30
場所	システム科学研修室
受講料	21,000円(税別) ※昼食付
お申込み	一般社団法人可視経営協会のサイト、 または右記のQRコードよりお申込み ください。